

移行期間における指導資料について (中学校外国語科)

文部科学省
初等中等教育局 情報教育・外国語教育課 外国語教育推進室



文部科学省

MEXT

MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

目 次

1. 移行期間における指導資料を提供する理由 p.1~2
2. 本指導資料が対象としている学年(生徒) p.3
3. 本指導資料の種類 p.4
4. 「小中接続」に係る指導資料について p.5~7
5. 「帯活動」に係る指導資料について p.8~12
6. 提供する資料一覧 p.13

1. 移行期間における指導資料を提供する理由

2019年度	2020年度	2021年度(全面実施)
中1 (小6)	中2	中3
(小5)	中1 (小6)	中2
		中1

理由その1

新入生の実態がかわる！

○2018年度から始まった移行措置により、小学校での学習内容が増加。
2019年度以降の1年生の既習内容は、これまでと比べより多様になる。

例)・活字体の大文字、小文字　・読むこと、書くことの言語活動　・過去形などの文

○このことにより、教科書に設定されている、いわゆる「入門期」の単元は、
生徒の実態に合わない可能性がある。

○そこで、小学校との円滑な接続を図るため、多くの小学校で使用されている
Hi, friends!やWe Can!での学習内容を基にした「小中接続」を意図した単元を新設。
当該単元の指導計画等を作成。

➡ 「小中接続」に係る指導資料の詳細は、p.5～p.7参照

1. 移行期間における指導資料を提供する理由

2019年度	2020年度	2021年度(全面実施)
中1	中2	中3
(小6)	中1	中2
(小5)	(小6)	中1

理由その2

学ぶ内容が変わる！

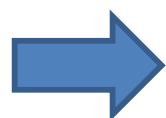
○2021年度の中2、3の生徒が学ぶ内容は、前年度までの内容と比べ、**ギャップが大きくなる。**

例) 語：新CSでは、語数が1,200語程度から2,200～2,500語程度に増加。2019～2020年度中により多くの語に触れる機会を提供することで、2021年度の学習により円滑に移行できる。

領域：新CSでは、「話すこと[やり取り]」の領域が新設。2019～2020年度中に当該領域の言語活動に取り組む機会を提供することで、2021年度の学習により円滑に移行できる。

○そこで、各校の年間指導計画を極力変更することがないよう、**授業冒頭の5～10分で実施が可能な「帯活動」の指導計画等を作成。**

○当該計画により「話すこと[やり取り]」の言語活動の継続的に取り組むとともに、新しい教科書で「増加と思われる語」(※p.10参照)にふれることができるようにした。



「帯活動」に係る指導資料の詳細は、p.8～p.12参照

2. 本指導資料が対象としている学年(生徒)

移行期間(2年目)

移行期間(3年目)

全面実施

2019年度	2020年度	2021年度
中1	中2	中3
	中1	中2
		中1

この期間の、中1及び中2の生徒が対象

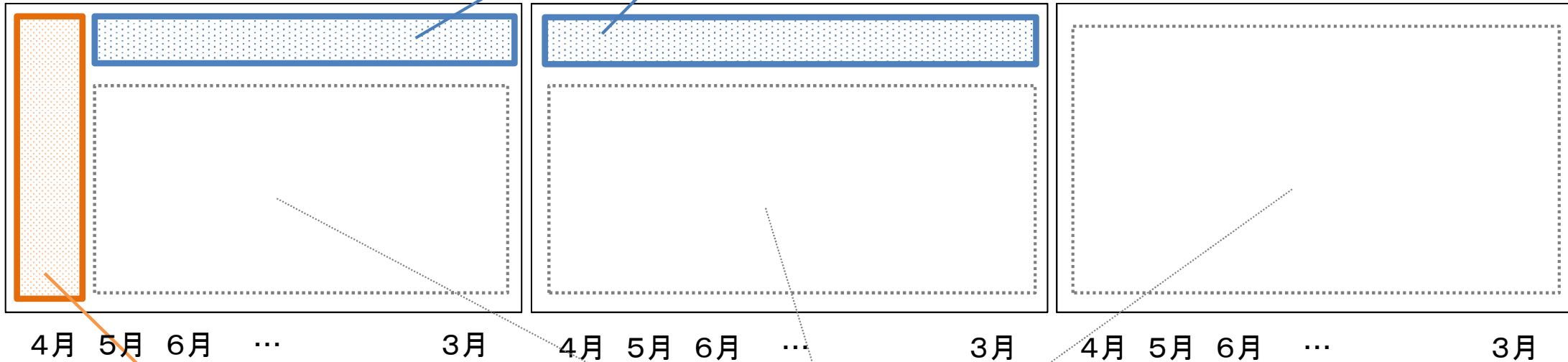
3. 本指導資料の種類

「帯活動」に係る指導資料

中学校第1学年(年間140時間)

中学校第2学年(年間140時間)

中学校第3学年(年間140時間)



「小中接続」に係る指導資料

これら二つの指導資料で示している考え方は、**中学校外国語科の授業全般の改善にも資する！**

※実態を把握して指導に生かすこと、実際のコミュニケーションにおいて活用することで知識・技能は獲得されることなど

※上記二つの指導資料とは別に、生徒用読み物教材を2019年度中に作成・配付予定。

4. 「小中接続」に係る指導資料について

資料の概要

- 中学校第1学年の4月(12時間分)に「小中接続単元」を新設。
- 当該単元の**単元指導計画**及び各単位時間における**展開案**。

※当該単元により指導するか、教科書に設定されている同様の趣旨の単元により指導するか、または両者を融合させるかは、生徒の実態に応じて決定する。

作成の目的

- 小学校での外国語(英語)学習との**円滑な接続**を図ることができるようにする。

単元指導計画 の特徴

- 多くの小学校で使用されている「Hi, friends!」及び「We Can!」との**関連**を明記。

展開案の 特徴

- We Can!に準拠した学習指導案を**中学校版にリバイス**。
- We Can!のデジタル教材や言語活動等を**再利用**。
- 授業で使用する**ワークシート**も、その一部を提供。
- アルファベットの読み・書きについても、改めて丁寧に指導する計画。

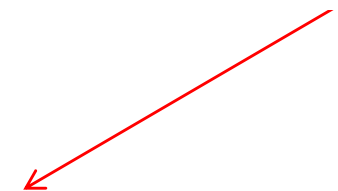
4. 「小中接続」に係る指導資料について

4. 単元計画(全12時間) ※表中の「WC」はWe Can!, 「Hf」はHi, friends! をそれぞれ指す。

単元指導計画について

第1時	第2時	第3時	
<p>【目標】</p> <p>教師や友達の自己紹介を聞くとともに、生徒が簡単な自己紹介をする。</p>	<p>【目標】</p> <p>自分の好きなものについて尋ねたり答えたりして伝え合う。</p>	<p>【目標】</p> <p>自分の日課や誕生日を友達と伝え合う。</p>	<p>【目標】</p> <p>アルファベットの名称について理解し、正しく大文字と小文字を書く</p>
<p>【学習内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自己紹介をする 世界の友達が自己紹介する映像を見る 中学校英語科の学習について知る 	<p>【学習内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> グループで好きなスポーツや動物、食べ物、教科などを伝え合う ペアで好きなものを尋ねたり答えたりする インタビューした友達の名前をローマ字で書いたり、聞いてわかったことをインタビューシートにまとめる 	<p>【学習内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> 曜日や月の言い方を復習する 誕生日を尋ね合い、同じ誕生月の友達を探す 起きる時間や寝る時間、好きなことをする時間を友達と伝え合う インタビューした友達の名前をローマ字で書いたり、聞いてわかったことをインタビューシートにまとめる 	<p>【学習内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> アルファベットの大文字の名称と文字を一致させる アルファベットの大文字を書く アルファベットの小文字の名称と文字を一致させる アルファベットの小文字を書く
<p>【使う表現・語彙等】</p> <p>あいさつ, 自己紹介の表現</p> <p>My name is ~. I like ~. I have ~.</p> <p>I live in ~.</p> <p>Do you ~?</p> <p>I can ~. I can't~. I'm from ~.</p> <p>He / She is ~.</p>	<p>【使う表現・語彙等】</p> <p>スポーツ名, 動物名, 食べ物, 教科名</p> <p>What sports/ animals/ foods/ subjects do you like? --- I like ~.</p>	<p>【使う表現・語彙等】</p> <p>曜日・月・日にち, 時間の言い方</p> <p>What day is it today? --- It's ~.</p> <p>What's the date today? --- It's ~.</p> <p>When is your birthday?</p> <p>My birthday is~.</p> <p>What time do you get up?</p> <p>I get up at~.</p> <p>What time do you go to bed?</p> <p>I go to bed at ~.</p>	<p>【使う表現・語彙等】</p> <p>アルファベット</p> <p>アルファベット</p> <p>アルファベット</p>
<p>【WC, Hfとの関連】</p> <p>WC2 U1 Hf1 L1, 4</p>	<p>【WC, Hfとの関連】</p> <p>WC1 U1 WC2 U1 Hf1 L1, 4</p>	<p>【WC, Hfとの関連】</p> <p>WC1 U2, 4 WC2 U1 Hf2 L2</p>	<p>【WC, Hfとの関連】</p> <p>WC1,2 アルファベットジングル</p> <p>Hf 1 L6 Hf 2 L1</p>

■ WC (We Can!) と Hf (Hi, friends!) との **関連を明記。**



4. 「小中接続」に係る指導資料について

展開案について

時間	言語活動等 (生徒)	指導・援助 (教師) ◎評価方法
5分	<p>○挨拶をする。</p> <p>・教師の自己紹介を、反応を示したり、質問について考えたり答えたりしながら聞く。</p>	<p>・全体に挨拶をする。</p> <p>・初めての英語科の授業にあたり、好きなものやこと、嫌いなものやことなどを含めて短い自己紹介をする。その際に、一方的に話さず、質問をしたり生徒からの質問に答えたりしながら自己紹介を進め、生徒を自己紹介に巻き込むようにする。</p> <p>※教師の写真や具体物等を提示するとよい。</p> <p>・教師の名前はアルファベットの文字を示し、意識付けを図る。</p>
	<p>自己紹介の例</p> <p>Hello, everyone. My name is Tanaka Yumi. Y-U-M-I. Yumi. I live in Sakura-cho. I like badminton very much. Do you like badminton? I have a cat. Her name is Taiga. She is very cute. I like cats very much. Do you like cats? …</p>	
30分	<p>○自己紹介をする。</p> <p>・小学校で習った表現を活用し、簡単な自己紹介をする。</p> <p>“I’m Kenta. K-E-N-T-A. Kenta. I’m from ~. I like ~. Nice to meet you.”</p>	<p>・生徒に簡単な自己紹介 (名前・出身校・好きなもの) をするように伝える。</p> <p>・生徒の自己紹介に対して、反応したり全体に質問をしたりしながら、進めていく。</p>
12分	<p>○世界の友達が自己紹介をする映像を見る。</p> <p>【Let's Watch and Think】 We Can! 2 Unit1 p.2,3</p> <p>ムハンマド (エジプト) アナスタシア (ロシア) マーク (アメリカ) ソフィア (ブラジル)</p>	<p>・We Can!2 のテキスト (デジタル教材) を提示し、小学校での学習を想起させる。</p> <p>※生徒が持参している場合は各自で見えるように伝える。</p> <p>・映像を見せ、わかったことを発表させるとともに、世界では様々な国で英語が使われていることを実感できるようにする。</p> <p>例: ムハンマド Hello. アッサラームアレイコム My name is Muhammad. I'm from Egypt. I like cats. We have a cat. He is small and cute. I can speak Arabic and English.</p> <p>※デジタル教材を使用できない場合は、テキストを各自見せながら指導者が指導書のスクリプトを読んだり、インターネットを利用して世界で英語を話している子どもの動画を見せたりするとよい。</p>
	○中学校英語科の学習について知る。	<p>・中学校での英語科の学習について伝える。</p> <p>・中学校では小学校よりもできるようになることが増えること</p>

■WC (We Can!) とHf (Hi, friends!) との 関連を明記。

■WC (We Can!) を授業の中で 実際に使用する。

■WC (We Can!) の デジタル教材を使用できない場合の対応 を明記。

5. 「帯活動」に係る指導資料について

資料の概要

- 「帯活動」(約10分間)でSmall Talkの実施を想定し、当該活動の年間計画及び単位時間における展開案。

作成の目的

- 「話すこと[やり取り]」の能力を少しずつ身に付けることができるようにする。
- 「増加すると思われる語」を聞いたり話したりすることができるようにする。

年間計画の特徴

- Small Talkを2単位時間に1回実施を想定し、70時間の年間計画を作成。
- トピックを4～5(「思い出」「したいこと」「人紹介」等)に焦点化。当該トピックを年間通じて扱い、語彙や表現などを繰り返し活用させ定着を図るよう計画。

活動案の特徴

- 5～10分間の指導過程を統一。(詳細は別紙参照)
- どの時間も同じ指導過程であることを踏まえ、提供する活動案は、70時間分すべてではなく、年間34時間分。(各トピックからまんべんなく抽出)
- 当該指導過程は、言語活動を通して指導することを意図。
「話すこと[やり取り]」の能力を少しずつ獲得させることを志向。

内容の伝え合いを重視。その中で必要な指導を行う。(活動を通して指導する)

1. 内容重視

- 身近な話題の中で、自分自身の考えや気持ちなどを伝え合わせる。
- 教師も自分自身のことを英語で伝える。やり取りを楽しむ。

2. 対話の継続

- 対話を継続することができるような表現を段階的に使わせていく。

3. 既習表現の活用

- 伝えたいことを伝えることができるよう、既習表現を想起させる指導を行う。

4. 指導過程

- 3や4を、「活動→指導→活動」の過程で指導する。 ※詳しくはp.12参照。

5. 指導観

- 指導の成果が出てくるのには時間がかかることを理解して指導。フォーマットを暗記させるなど、その場限りのパフォーマンスを求める指導はしない。

以下の3点を満たした語を、「増加すると思われる語」としている。

- ・生徒の**発信語彙**となりうる語。
- ・生徒の**言語活動**において**汎用性のある動詞, 形容詞, 副詞**。
- ・全ての教科書(6者)で共通して使用されている語を除いた,
1者から5者で使用されている語。

動詞 (33語)	arrive, imagine, solve, add, focus, judge など
形容詞 (44語)	broken, expensive, middle, strict, lazy, lovely など
副詞 (7語)	maybe, alone, below, carefully, everywhere など

5. 「帯活動」に係る指導資料について

■ 5～6月, 7～9月, 10～12月, 1～3月の四期に分けて作成。

年間指導計画について

■ 1トピックについて2コマ使って指導。

■ 教科書題材を参考に、生徒に身近なものを選択。

年間を通じて指導。常に使用させ定着を図る。

帯活動 年間計画 第1学年
 ※週4コマ中2コマの帯活動の時間を使って実施することを想定。2コマ×35週＝70コマ分の年間計画

時期	5～6月				
配当コマ数	14コマ程度				
トピック	思い出	～したいこと/予定	人紹介	日本の文化/地域	好きなもの・こと
対話を継続するための基本的な表現	・説明する A: I went to Tokyo. B: What did you do there? A: I enjoyed shopping. ... ・相づちを打つ (That's nice.) ・繰り返す (You went to ~.) ・聞き直す (Excuse me?)	・説明する (I want to join the ~ club. / Because I like ~.) ・繰り返す (The badminton club? / Oh, you like sports.) ・相づちを打つ (Great. / Really? / That's nice. / That's cool. / Wow.) ・質問する (The art club? / Why? / Are you good at ~? / Is it exciting for you?)	・紹介する (This is my father, Takeshi. He is a baseball fan. He likes The Yellow Sox.) ・反応を示す (Oh, I see. / Me, too.) ・繰り返す A: This is my father, Takeshi. B: Oh, this is your father, Takeshi.	・話し掛ける (Did you go to <i>ohanami</i> this year? / Do you want to go to <i>ohanami</i> next year?) ・褒める、賛成する (Nice.) ・説明する (I like <i>ohanami</i> .)	・繰り返す A: I like apples. B: Oh, apples. ・相づちを打つ (Oh, I see.) ・質問する (Why?)
【トピックに関わる基本的な表現】	・Did you enjoy ~? ・What did you do? ・I went to ~, / I enjoyed ~.	【トピックに関わる基本的な表現】 ・Which club (team) do you want to join? ・Are you good at ~? ・Is it exciting for you?	【トピックに関わる基本的な表現】 ・This is ~. ・He/She is ~. ・He/She likes ~.	【トピックに関わる基本的な表現】 ・Did you ~? ・Do you want to ~?	【トピックに関わる基本的な表現】 ・What ~ do you like? ・Do you like? ・I like ~.
主な言語材料	【繰り返しの使用が期待できる語彙】 ※教師は意識して使用することが望ましい。 ・kick	【繰り返しの使用が期待できる語彙】 ※教師は意識して使用することが望ましい。 ・guess ・painting ・drawing ・excellent ・maybe ・exercise	【繰り返しの使用が期待できる語彙】 ※教師は意識して使用することが望ましい。 ・strict ・introduce ・funny	【繰り返しの使用が期待できる語彙】 ※教師は意識して使用することが望ましい。	【繰り返しの使用が期待できる語彙】 ※教師は意識して使用することが望ましい。 ・bright ・delicious ・dry ・shy ・slow ・smart

■ 「増加すると思われる語」について、少なくとも教師は意識して使用。

5. 「帯活動」に係る指導資料について

■ 英語を用いたコミュニケーションを教師も行う。

展開案について

言語活動 及び 各対話例(教師の発話例)	言語活動 及び 対話例(生徒の発話例)	指導上の留意点
<p>(1) Interactive Teacher Talk T: It was the Golden Week last week. Did you have fun? I enjoyed it very much. Did you enjoy the Golden Week Holidays? Yes? (全体に問いかける) S1: Did you enjoy the Golden Week Holidays? T: That's nice. What did you do? T: I went to <i>Tokyo</i>. How about you? T: You went to <i>Fukui</i>. That's nice. How about you, S2? Did you enjoy it? T: What did you do? T: Oh, You went to <i>Osaka</i>. That's good. What did you do in <i>Osaka</i>? T: Wow, you enjoyed ... (こうしたやり取りを、数人の生徒と行う)</p>	<p>(1) Interactive Teacher Talk Ss: Yes! S1: Yes. S1: えーと??? S1: ああ、I go to <i>Fukui</i>. S2: Yes. S2: I went to <i>Osaka</i>. S2: ...</p>	<p>(1) Interactive Teacher Talk</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 話題の提供 ● 語彙への意識付け ● 正確さ及び適切さに関する指導
<p>(2) S-S Interaction 1 T: Let's talk about Golden Week holidays in pairs.</p>	<p>(2) S-S Interaction 1 対話例</p> <p>A: Did you enjoy the Golden Week Holidays? B: Yes. A: That's nice. What did you enjoy? B: Tennis. A: Tennis. That's good.</p>	<p>(2) S-S Interaction 1 以下のいずれかを計画的に行う。(毎時間全てを行う必要はない)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 聞き手のモデル ● 取組状況の確認
<p>(3) Sharing T: Do you have any questions? T: How do you say “～へ行った”? (学級全体へ問いかける) T: That's right. “I went to <i>Tokyo</i>.” “I went to <i>USJ</i>.” OK? S3, can you say that? T: Very good. Anything else? T: What was the first question? (学級全体へ問いかける)</p>	<p>(3) Sharing Time S3: 「～へ行った」って何と言うのですか。 S4: I go to ～? S5: I went to ～. じゃない? S3: I went to <i>Kyoto</i>. S6: はじめの質問、なんて言うのか... Ss: “Did you enjoy the Golden Week holidays?” ...</p>	<p>(3) Sharing 以下のいずれかを計画的に行う。(毎時間全てを行う必要はない)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● キーワード等の使用 ● パラフレーズ(既習表現の想起) ● 対話の継続
<p>(4) S-S Interaction 2 T: Let's talk again about the same topic in new pairs.</p>	<p>(4) S-S Interaction 2 対話例</p> <p>C: Did you enjoy the Golden Week Holidays? B: Yes. C: That's nice. What did you do? B: I enjoyed tennis. C: Tennis. That's good.</p>	<p>(4) S-S Interaction 2</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 変容の確認

■ **指導過程を統一。**

■ **生徒の発話をイメージして指導。**

■ 指導上の留意点の**詳細は別紙にまとめて提示。**

(「③ Sharing」での意図的な指導が極めて重要)

6. 提供する資料一覧

「小中接続」に係る指導資料

- ① 単元指導計画
- ② 展開案

「帯活動」に係る指導資料

- ① 年間指導計画
- ② 展開案

※右に示すトピックの展開案

※各トピック2コマ分

第1学年

5～6月期

- ・大型連休の思い出
- ・私の家族
- ・今年のお花見

7～9月期

- ・暑い季節に食べたいもの
- ・好きな教科

10～12月期

- ・秋にする好きなこと
- ・私のヒーロー

1～3月期

- ・1年間の思い出
- ・将来したいこと
／職場体験でしたいこと

第2学年

5～6月期

- ・週末の思い出
- ・私の家族

7～9月期

- ・宿泊研修の思い出
- ・オリンピック・パラリンピック
で見たい競技

10～12月期

- ・学校行事
- ・職場体験

1～3月期

- ・制服・私服
- ・修学旅行先